

白藍塾オリジナル

2026年度 入試小論文分析&解答のヒント

2026年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・経済学部

例年通り、課題文を読んで、「説明問題（200字）＋複雑な条件のついた論述問題（400字）」という2つの設問に答える問題だ。

課題文は、保守主義と自由主義について論じたハイエクの古典的な文章。古い翻訳調で慣れない人には読みづらいかもしれないが、内容自体はそれほど難しくはないだろう。

設問Aでは、「保守主義者は自分たちにとって望ましくない変化を妨げるために政府の権力を使用する傾向がある」という箇所に見られる保守主義者の特徴を、自由主義者との違いに着目しつつ説明することが求められている。設問文の中に「網羅的に」とあるので、課題文の中で保守主義者の性格として挙げられている3つのポイントをそのまま書けばよい。つまり、「社会の変化や新しいものへの恐れ」（第2段落）、「権威への愛着」、「経済システムに対する無理解」（第3段落）の3点を、一つずつ簡潔に説明すれば、それで十分字数が埋まるはずだ。

設問Bは、今年度もややこしい条件がついている。まず、①「悔い改めた社会主義者が自由主義より保守主義に転じやすいのはなぜか」を簡潔に説明し、その上で、②自由主義と保守主義が対立する問題の例を挙げ、「自由主義者であればその問題についてどうするか」を論じることが求められている。

書き方としては、最初の段落で①を説明し、②は2部構成のA型を応用して書くようにすると、うまくまとまるはずだ。

保守主義者と社会主義者の共通点については、課題文の第4～6段落で断片的に触れているが、要は「自分たちの信じる価値を他者に強制することは正しいと考えている」ということだろう。それを簡潔に示すとよい。

②についてだが、日々のニュースに接していれば、例はいくらでも思いつくはず。例えば、同性婚や選択的夫婦別姓は、選挙でもしばしば争点になっているが、いわゆる保守派とリベラル派で賛否の分かれる問題として典型的なものだろう。例えば、同性婚の問題を例として挙げた上で、自由主義者の立場になって、その問題をどう考えるかを具体的に説明すればよい。仮に課題文が十分理解できていなくても、そうした問題をめぐって保守派とリベラル派がどう対立しているかを知識として知っていれば、問題なく答えられるはずだ。

自分自身がどう考えるかではなく、あくまでも「自由主義者はどう考えるか」を説明することが求められているので、その点は忘れないようにしよう。